

植物防疫所

病害虫情報

NO. 8

1982・7・15

イネミズゾウムシの発生状況と防除

——中・四国、関東以北に発生拡大——

イネミズゾウムシは、昭和51年に愛知県下で発生して以来その分布を年々拡大してきたが、本年は、急速に北上し、これまで発生が確認されなかった関東、東北にまで拡大し、また、中国、四国地方の一部でも発生が確認された。

本年新たに発生した県は16県に及び、前年までの12府県から28府県に発生が拡大し、農林水産省植物防疫課が取りまとめた6月30日現在の全国の発生状況は別表（8頁上段）のとおりで、613市町村、約18万ヘクタールに及んでいる。

発生状況 各地における発生状況の特徴は次のとおりである。

関東：東京都を除く7県下ではほぼ同時期に初発生が確認された。神奈川、千葉の両県では、県下のほとんどの市町村に点状に発見されたが、一般に発見場所は限られ、一部地域を除いて低密度の発生となっている。

東北：福島県いわき市他3市町、宮城県松島町、山形県大蔵村他1町及び岩手県水沢市他1市で初発生が確認されたが、いずれも既発生地から遠く離れた山間部あるいは山あいの水田で、いわゆる飛地的な発生となっている。

東海・近畿：4月下旬から5月上旬にかけての高温が越冬成虫の本田への飛来を前年より早くし、また、成虫の誘蛾灯への飛込みも多く、各県(府)とも発生面積が拡大した。愛知県では、水稻作付面積のほぼ全域で発生が確認された。

北陸：石川県加賀市、富山県細入村他1町及び新潟県新潟市の一部で初発生

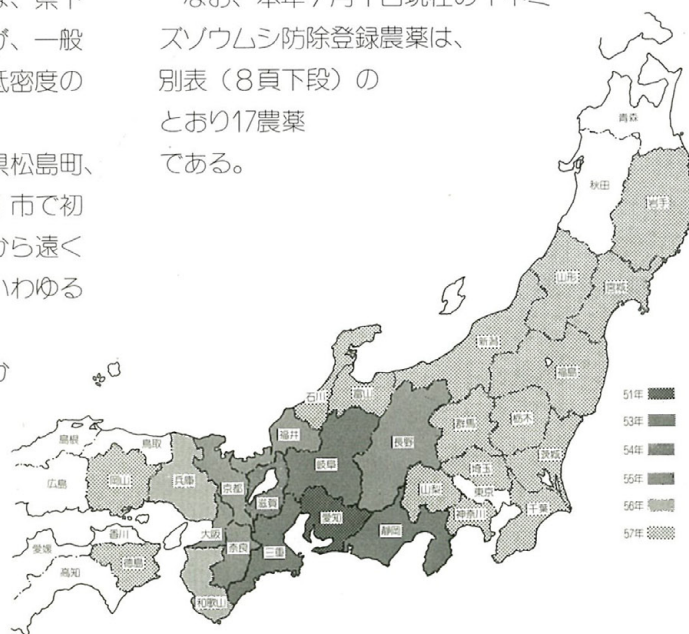
が確認された。

中国・四国：岡山県美星町他2町の山間部の水田で、また、四国では徳島県阿南市の山沿いの水田でそれぞれ初発生が確認された。

防除対策 既発生地では、育苗箱施薬等の幼虫防除を基幹にした体系防除がかなり普及定着し、また、新発生県では、ポスターやリーフレットを配布し、防除の啓蒙を図る等の対策が講じられ徹底した防除が行われた。

既発生県における成果によれば、防除を徹底することにより、被害は最少限におさえられることが明らかになっており、発生当初からの体系防除の指導が最も重要な対策と考えられる。

なお、本年7月1日現在のイネミズゾウムシ防除登録農薬は、別表（8頁下段）のとおり17農薬である。



イネミズゾウムシ発生県の年度別推移